

補足 1: 「妊娠高血圧症候群の病型分類（病気の種類）」

病気の原因や症状の違いによって分類したものを病型分類と言います。

妊娠高血圧症候群は4つの病型に分かれています。

1. 妊娠高血圧腎症

妊娠 20 週以降に初めて高血圧となった妊婦さんで、高血圧の他に検査の異常や症状がある場合にこの病型と診断されます。検査の異常としてはタンパク尿、腎臓や肝臓の機能の異常、血小板の減少、血液を固める成分の異常などがあります。また、高血圧以外の症状には、原因のわからない上腹部の痛みや、頭痛、目が見えにくくなるなどの症状があります。赤ちゃんの発育が悪く推定体重が小さかったり、超音波検査で子宮に入っていく血液の流れが悪くなったりした場合もこの病型となります。

2. 妊娠高血圧

妊娠 20 週以降に初めて高血圧となった妊婦さんで、最後まで高血圧以外の症状や検査の異常を示さないものです。

3. 加重型妊娠高血圧腎症

妊娠前から、または妊娠 20 週となる前から高血圧だった妊婦さんが、妊娠 20 週以降に妊娠高血圧腎症で見られたような症状が出たり検査に異常が出たりした場合、または元々蛋白尿があるような腎臓の病気を持っていた妊婦さんが妊娠 20 週以降に高血圧となってしまったような場合などがこの病型分類となります。

4. 高血圧合併妊娠

妊娠前から、または妊娠 20 週となる前から高血圧だった妊婦さんで、最後まで高血圧以外の検査異常や症状を示さない場合にこの病型分類となります。

また、妊娠高血圧症候群はいつ発症したかによっても分類されています。

- 早発型：妊娠 34 週未満で妊娠高血圧症候群と診断された場合
- 遅発型：妊娠 34 週以降で妊娠高血圧症候群と診断された場合

主治医の先生からこうした言葉で説明があるかもしれません。妊娠の経過に伴い、病型分類が変更となる場合もあります。妊婦さんご本人の病状については主治医の先生にもよくご相談ください。

(文責 川端伊久乃)